

# 作り手の温もりを伝える ひょうたんランプ

ひょうたんランプアーティスト  
山田裕介さん

## ひょうたんランプと出会い、恋に落ちる

9年くらい前、テレビでひょうたんを使ってランプが作れると知り、ちょうど趣味で栽培していたひょうたんがあったので作ってみようと思いました。作ってみたら思いがけず面白くてすぐ夢中になり、数年かけて今のような自分のスタイルの作品が作れるようになりました。

当時ランプづくりは自分の楽しみで、人に売るつもりはなかったんですが、3年ほど前に友人の経営するバーに置きたいと頼まれました。その後写真家の友人が声をかけてくれて、彼の写真展と一緒にランプを置かせてもらえることになったんです。それが、ランプを多くの人に見てもらうきっかけになりましたね。最近の個展では28個の作品を出して、おかげさまでほとんどに買い手が付きました。

作品にするひょうたんは、畑を借りて自分で種から栽培しています。春夏秋とずっとひょうたんに手がかかるので、冬を制作にあてています。ひょうたんは収穫の後やるのがたくさんあって、この行程が実は結構過酷です。腐らせて中身を抜くのですが、この時のにおいはすごいですよ。個人的にはこの世で一、二を争うくらいに臭いんじゃないかと思います。これに耐えられなくてひょうたんの中身を抜くのをあきらめたという人もいます。無事に中身を抜いた後はにおいが取れるまで水付を繰り返し、乾かして、薄く内側にニスを塗ります。ここまで来て、やっとランプのデザインに入ります。大変ですけど、全部に自分で手をかけないと気が済まないし、何より楽しいんですよ。



自宅の作業場の様子。  
デザイン中、作業中のものがいっつも並ぶ。

## アーティストの顔

日頃から、いろんなものを観察して気になるデザインはすぐにカメラにおさめる癖があります。ランプの模様はもともと大好きな植物をモチーフにしたデザインも多いし、最近は星の話にはまって、宇宙をイメージした作品も作っています。



ひょうたん畑で作業する山田さん

ひょうたんランプアーティスト  
やまだ ゆうすけ  
山田裕介さん

1981年生。平塚市在住。9年前からひょうたんランプの制作を始める。子どものころから植物が大好きで、流木を拾ってきたり、園芸をしたりして過ごしていた。最近の楽しみは、ひょうたん畑の傍らでちょっとだけ育てている冬野菜。日常はサイディングという作業をする外壁工をしている。仕事とひょうたんランプの作業をかけもっていると、仕事と畑と家で過ごすのがほとんどの毎日。行きつけのお店で大切な友人と過ごす時間がオフの息抜き。



木星をイメージした作品。最近の個展にて。

ランプは、デザイン通りに穴をあけて終わりではなく、中に灯りをともす瞬間まで本当の出来がわかりません。灯りをつけて模様が浮かび上がったときに、イメージと違うこともあるし、逆に想像以上のこともある。自分が満足いくものができたときは最高に幸せ。ニヤニヤして眺めてみたり、写真を撮ったりしながら、ものすごく長い時間過ぎてしまいます。その時の気分はもう言葉にできないですね。

## 想い

ランプを買ってもらって手放すときは、「本当に可愛がってくれる人にもらわれてほしい」と思っています。ひとつひとつに、愛着だけでなく親心に近いものを抱えています。作品ではないんですが、実はもう10年位隣において寝ているひょうたんがあるんです。魔除けになるという理由もありますけど、気持ちとしてはそれ以上に特別な存在ですね。

将来は、空間アートのようなことをやってみたいです。ひょうたんランプは、置く場所によって模様の映り方が全然違います。二面に壁がある角の小さい空間に置くと、ランプの模様がきれいに映し出されるので、壁のデザインなども含めて、ランプを飾る空間をまるごと作れたらいいなと思います。

小学校6年生の頃からプロサーファーになるのが夢でした。毎日サーフィンしかしていなかったので、今思えば友達も少ないし、一緒に海に行く人以外につきあいがなかったですね。その夢はある時ケガをして諦めざるを得ませんでした。ランプづくりがきっかけで経験した仲間のあったかいサポートやいろいろな人との出会いが、いまの自分にとってかけがえのないものになっています。



最初にランプをおいてくれた幼馴染の店  
「煮込みダイニングかん」

P R O F I L E